

平成 30 年度 事業報告書

令和元年 5 月 19 日

特定非営利活動法人 志木総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ

(NPO 法人 クラブしっきーず)

理事長 増田 三枝子

電話番号 048-234-9487

1. 事業の成果

クラブしっきーずは、文部科学省が策定したスポーツ基本計画に掲げられた『総合型地域スポーツクラブ』として平成 12 年に発足、平成 14 年に NPO 法人の認証を受けた。

当初、宗岡三小ボランティアルーム内にあった事務局は、法人認証後に初代理事長宅へ移り、平成 20 年には組織体制の大きな変革を経て『まちづくり NPO』として空き店舗活用の“ステーション”を開設。法人 10 年目に、3 軒目となる空店舗に移転し、クラブハウス機能を合わせ持つ市民交流の場「まちの縁側」を埼玉県 NPO 基金の助成により整備。設立後 19 年目の現在、他に類をみない「多世代・多様な福祉活動拠点」として、安定した活動が継続できている。

活動の目的は、世代や障がいの有無を問わず地域に暮らすすべての人に対して参画を促し、スポーツ・レクリエーション及び文化活動を実施し、それを通して心の交流を図ることである。それは、まさに「スポーツと福祉とが融合する時代」を体現するチャレンジである。特に、生活圏域を意識して取り組んだ「地域における孤立防止」に的を絞った実践は、埼玉県共同募金会（あかいはね）から重点助成を受け、ステーションという『場のもつちから』を発揮し、確実に成果をあげることができた。また、法人自主事業・志木市委託事業・他団体事業への協力等を含む定期及びイベントプログラムは多岐にわたり、実に 45 チャンネルにのぼった。

さて、「孤立防止」の一方で、「福祉活動の担い手の高齢化」という課題に向けて取り組んだのが『レスキュー』であった。1・2 月の積雪時、なかなか除雪が進まない現実を前に、しくみとして若い力に働きかける選択をしたのである。前年の報告で、クラブ内の若い世代がフットワークの軽さや対応力の高さを示した事業について触れたが、今年度はさらにクラブ外（中学校）にアプローチ。埼玉県シラコバト基金の助成を受け、志木市・志木市社会福祉協議会・町内会等と連携し、中学生を“地域の宝”として共に福祉のまちづくりをする仲間を増やし、互いに顔の見える関係へといざなった。この**つなぎ**の役割を果たした点が、まさにしっきーずの強みといえよう。

このように、平成 30 年度は、会員同士はもとより、クラブと多様な組織・団体とが**連動**しながら、その力を活かし合う一年であった。しっきーずルームのチケット制導入やクラブマネジャーの研修に伴う不在などにより、プログラム参加者総数は減少した。しかし、それを上回る**質的な充実**がもたらされ、シニア会員の内面の変化は、チームおとどけメンバーの協力者増につながり、理学療法士資格取得をめざすクラブマネジャーとその学友たちが、主体性を持ち能動的に動くことにより機動力が増した。

『福祉マインドの萌芽 (H27)』、『メンバープライドの醸成 (H28)』、『しっきーず方式=まるごと (H29)』を経て、今まさに花の蕾をつけるステージに入ったと思われる。